

8月6日

詩曲 すずきこう

♩=72

やがてくる あのあさは げんばくが ひろしまへと  
 はちがつ の ああさは もくとうを ささげます  
 さるすべりの はながさく の ぜんか ずら さきほこ一

おとされ て ばくふうと ねっせんが まちとかす  
 われた ガラス つきささり ひふはたれ て ぶらさがる  
 なつはあ の いまわしさを わすれさせ て くれません

みずをください みずをくれ かわにひとは おしよせて  
 みずをください みずをくれ さまよう 一 ひとのそばに  
 げんばくは なくせます ひとがつくった ものだから

1.2.

みずをください みずをくれ さんぜんどの かまのまち  
 くるこげの ひとたちが もののように つまれてる  
 げんばくは ゆるせない ちきゅうすべが ゆるさない

三

忘夏ノさ  
 地原人原れは一  
 球爆が爆さあぜ  
 全は作はせのン  
 てっ て カリ  
 が許たなく 忌ズ  
 せなくくまラ  
 許なもせれわ 花  
 さいのますま 咲  
 ないだから 誇  
 いて

二

皮割黙八  
 物黒さ水膚れと月  
 のこまをはたうの  
 よげよ下垂ガを  
 うのうされラ あ  
 に いてス 捧の  
 人人 げ朝  
 積たの水ぶ突  
 まちそをらき  
 れがばくさ刺  
 てる にれがさ  
 る

一

熱落原や  
 三水川水線と爆が  
 千をにをがさが来  
 度下人下 れ 来  
 のさはさ街て 廣  
 い い溶 島  
 釜 押 か爆へあ  
 の水し水す風と の朝  
 街を寄をくは  
 くれてれ

八月六日

詩曲 すずきこう